

卒後臨床研修通信

センター通信

発行：卒後臨床研修センター



国見ヶ丘(高千穂町)

年表と図表で振り返る!

宮崎大学卒後臨床研修センター20年の歩み

宮崎大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター長 小松 弘幸

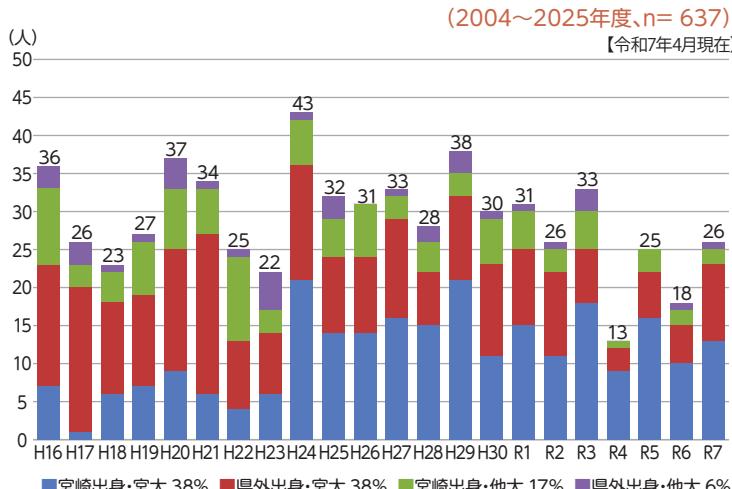


2004年に新たな臨床研修制度が開始され、今年で22年目となります。私は2006年1月に医学部卒業後8年目(32歳と2日)で卒後臨床研修センターに専任教員第1号として着任しました。以来約20年、今ではセンター長として臨床研修業務に関わらせていただいております。改めまして、これまでご指導いただいた先生方、本院研修プログラムを支えて下さった大学各診療科、協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設の指導医・病院職員の皆様、そして、2年間の臨床研修に研修医として真摯に取り組んで下さった約600名の研修修了生の皆様に心より御礼申し上げます。

2009年4月に創刊した「卒後臨床研修センター通信」は、今回で50号の節目を迎えました。私には2006年以降の本院研修プログラム制度設計の全てに関わってきた責務もありますので、今回は約20年間の歩みの“ごく一部”を年表と図表で簡潔にまとめてみました。

2004～2025年の本院採用研修医数とその出身地・出身大学別の内訳、出身大学名です。全国的に大学病院での研修開始者数が減少傾向の中、本院も例外ではありませんが、大学病院と協力型病院による柔軟な超ハイブリッド研修が可能な宮崎大学研修プログラムの魅力は今も健在だと思いますので、今後も一層の充実に努めたいと思います。

新研修医数(医科)の推移



研修医(医科)の出身大学

(2004～2025年度、n= 637)

宮崎大学	493名	岩手医科大学	1名
北海道大学	1名	埼玉医科大学	8名
東京大学	1名	東京医科大学	1名
浜松医科大学	2名	東京女子医科大学	1名
滋賀医科大学	1名	東京慈恵会医科大学	1名
鳥取大学	3名	杏林大学	2名
島根大学	3名	日本大学	2名
広島大学	1名	昭和医科大学	1名
山口大学	3名	北里大学	2名
徳島大学	1名	東海大学	1名
香川大学	1名	東邦大学	1名
愛媛大学	3名	聖マリアンナ医科大学	2名
高知大学	1名	金沢医科大学	5名
九州大学	1名	愛知医科大学	3名
長崎大学	12名	藤田医科大学	6名
佐賀大学	7名	近畿大学	8名
熊本大学	2名	関西医科大学	1名
大分大学	11名	大阪医科大学	1名
鹿児島大学	7名	兵庫医科大学	3名
琉球大学	4名	川崎医科大学	4名
自治医科大学	3名	福岡大学	5名
		久留米大学	17名

卒後臨床研修センターの組織構成、研修プログラムと内部コースの変遷、センター独自の新しい取り組みをまとめました。

また、通信1~49号の表紙を別ページに一覧化しました。

通信は卒後臨床研修センターHP (<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/sotsugo/>) からダウンロード可能ですので、ぜひ見直してみて下さい。

宮崎大学医学部附属病院 卒後臨床研修センタ一年表

年	センター長	副センター長	センター教員(人)	医科研修医(人)	歯科研修医(人)	研修プログラム	研修コース	協力型病院/施設数	認定指導医数(人)	教育カリキュラム(回)	センター通信(巻)	新しい取り組み等
2004	池ノ上克	寺井親則	0	36	—	宮崎大学プログラム	A~Dコース	34	5	—	—	卒後臨床研修センター運営委員会設置(当初は必修領域のみ)
2005			0	26	—			34	12	—	—	「卒後臨床研修教育カリキュラム」開始
2006			1	23	5		海外医療研修コース(~2017)	34	13	23	—	卒後臨床研修センター専任教員配置開始 「ベスト指導医賞」創設
2007			2	27	7			35	19	22	—	
2008	岡山昭彦	小松弘幸	2	37	7		A~Eコース	35	32	27	—	文部科学省「中九州3大学病院合同専門医養成プログラム」事業採択
2009			9	34	4			40	47	33	1,2	「卒後臨床研修センター通信」創刊 臨床技術トレーニングセンター開設
2010			10	25	5	自主デザイン 小児/産科 重点		43	62	36	3,4,5	卒後臨床研修センターのお引っ越し 「新研修医対象基本手技実習」開始
2011			11	22	6			43	74	36	6,7,8	「宮崎大学研修プログラム冊子」発刊 「研修アドバイザー制度」開始
2012			11	43	7			45	70	29	9,10,11	「新版)研修医手帳」策定 「ベスト研修医賞」創設
2013			10	32	8		内科合同研修コース 新設	49	86	31	12,13,14	
2014	片岡寛章		10	31	6			51	97	32	15,16,17	「卒後臨床研修センターHP」リニューアル
2015			9	33	3			53	121	32	18,19,20	内科合同研修コース「はじめの一歩」開始 「卒後臨床研修センターブログ」開設
2016	小松弘幸	中島孝治	9	28	2		Tiger Cave コース新設	55	135	32	21,22,23	卒後臨床研修センター・セミナー室新設(※All Miyazaki臨床研修プロジェクト始動)
2017			9	38	0			55	139	32	24,25,26	
2018		宮内俊一	9	30	2		地域医療強化コース 新設	55	151	31	27,28,29	(※新専門医制度開始)
2019			9	31	4			56	176	32	30,31,32	「研修医川柳コンクール」初開催
2020			9	26	3			56	166	33	33,34,35	研修医学年リーダー制度」開始 「県内基幹型病院合同Web勉強会」開始
2021			9	33	4			55	141	33	36,37,38	
2022			9	13	7			54	143	32	39,40,41	
2023			9	25	4			54	161	32	42,43,44	
2024			9	18	1		感染症強化 コース新設	55	167	32	45,46,47	「週末大学救急研修制度」開始
2025			9	26	1			55	174	32	48,49,50	

卒後臨床研修センターの歴代担当教員(計49名)です。今では研修アドバイザーモードも確立し、毎週実施しているスタッフミーティングでも個々の教員が高い制度理解と意識をもってセンター運営を行っています。

卒後臨床研修センター担当教員一覧

(2006～2025年度)

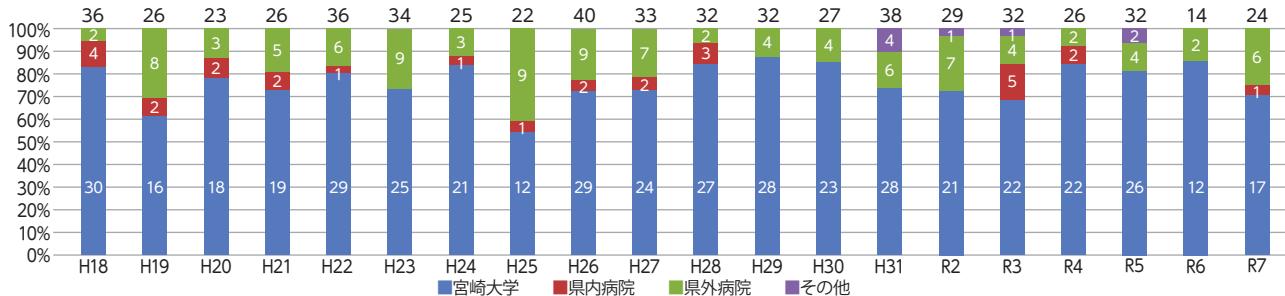
診療領域	担当教員名 (担当年、20**年で表記) (※センター長、副センター長歴を除く)
全体管理	小松弘幸(06～07)、前田和徳(07～08)、石田康行(09～10)、高橋伸育(10)、有村保次(09～12)、※中九州3大学合同専門医養成プログラム専任
内科	芦塚伸也(07～12)、福田顕弘(13)、中島孝治(14～16)、黒木健吾(16～17)、小山彰平(17～21)、森林耕平(21～25)
内科	安倍弘生(08、11～15)、岩切久芳(09)、三池忠(10)、橋本神奈(16)、三宮一朗(17～18)、鈴木翔(19～25)
内科	上野史朗(07～10)、梅北邦彦(11)、宮内俊一(12～17)、京樂格(07～11)、坂元昭裕(12～13)、坪内拡伸(14～18)、小田康晴(19～25)
外科	長濱博幸(07～11)、西村征憲(12～14)、森浩貴(15～17)、落合昂一郎(18、21)、森晃祐(19～20)、谷口智明(22～23)、宗像駿(24～25)
外科	旭吉雅秀(07～15)、宮崎康幸(16～17)、市原明子(18～21)、樋口和宏(22～23)、濱田朗子(24～25)
麻酔科	川崎祐子(08～09)、越田智宏(09、18～20)、森信一郎(10～13)、河野太郎(14～18)、日高康太郎(21～22)、緑川沙樹(23～25)
小児科	近藤恭平(07～17)、木許恭宏(18～25)
産婦人科	山下理絵(17～20)、圓崎夏美(21～22)、後藤智子(22～25)
精神科	三好良英(11～17)、大太平洋明(18～25)

本院研修修了生の進路の概要です。約8割の修了生が宮崎県内で引き続き専門研修を行っている状況が分かります。

研修医(医科)の修了後進路

(2004～2025年度)

【令和7年3月現在】



ベスト指導医賞とベスト研修医賞の歴代受賞者です。宮崎大学の研修プログラムは大学のみならず協力型病院の素晴らしい先生方のご指導によって支えられていることが良く分かります。また、ベスト研修医賞の受賞者も現在第一線で臨床現場を牽引しておられる先生方ばかりで本当に嬉しく思います。

ベスト指導医賞受賞者

(受賞2回以上、2006～2024年度)

指導医名	所属(主に受賞時の病院)	診療領域	受賞回数	受賞年度(20**年)
中村 祐志	潤和会記念病院	麻酔科	15	07, 08, 09, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22
岩切 弘直	都城市郡医師会病院	内科	15	06, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23
廣兼 民徳	宮崎善仁会病院/宮崎市郡医師会病院	救急科	10	09, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19
長嶺 育弘	宮崎大学/県立延岡病院	救急科	6	15, 18, 19, 20, 21, 22
長野 健彦	宮崎善仁会病院/宮崎市郡医師会病院	救急科	5	07, 11, 12, 14, 20
松浦 良樹	古賀総合病院	内科	4	17, 18, 22, 23
松田俊太郎	串間市民病院/県立日南病院	総合診療	4	13, 15, 16, 20
白尾 英仁	宮崎市郡医師会病院	救急科	3	22, 23, 24
河野 次郎	県立宮崎病院	精神科	3	17, 18, 20
島 雅保	宮永病院	外科	2	20, 22
床島 真紀	西都児湯医療センター	内科	2	12, 18
菊池 正雄	宮崎大学	内科	2	11, 12
梅北 邦彦	宮崎大学	内科	2	16, 17
力武 雄幹	宮崎大学	内科	2	23, 24

ベスト研修医賞受賞者

(2012～2024年度)

年度	受賞者		
2012	岩切 由佳	田中 浩喜	野本 仁志
2013	古郷央一郎	佐々木 朗	土田 真平
2014	佐々木良子	宮部 優典	重草 貴文
2015	落合 彰子	のき田一旭	中津留佳菜子
2016	興梠 貴俊	田村 充	力武 雄幹
			島津志帆子
2017	金丸 和樹	内田 泰介	後庵 篤
2018	入佐 浩史	工藤 理紗	内山 尚美
2019	神谷 俊樹	田村 穂高	榎原 亮
2020	喜多 恒允	内田 晓子	河野 文耶
2021	田中 早紀	唐澤 賢祥	小野 健太
2022	大槻佑生子	三嶋 悠佳	池田 涼馬
2023	河野 真菜	長嶺宏士朗	和田明香里
2024	益山 典子	栗原 淳	瀬ノ口敬斗

お示したいデータはまだありますし、研修医の皆さんに纏わるエピソードもたくさんあるのですが、ここでは書けないこともあります。(笑)、誌面の都合で今回はここまでとさせていただきます。今後とも卒後臨床研修センターをよろしくお願い申し上げます。

卒後臨床研修センター通信 Vol.1~49



センター通信 vol.50 記念号によせて

message

今回、卒後臨床研修センターに研修医として在籍しておりました先生方よりメッセージを頂いております。
左側は現在、右側は研修医時代のお写真を掲載しております。



麻酔科 長嶺 佳弘

2012年3月修了

「卒後臨床研修センター通信」第50回記念号おめでとうございます。振り返りますと、時には大変であった臨床研修も、卒後臨床研修センターを拠り所に、先生方に支えられ、また同期と励ましあいながら乗り切ったことを思い出します。臨床研修を通してお世話になった先生方や卒後臨床研修センターで培った同期との繋がりは、今でも私の財産となっています。小松先生をはじめ、日頃より医療人育成にご尽力頂いている卒後臨床研修センターの先生方並びにスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。宮崎大学卒後臨床研修センターの益々のご発展を祈念致します。



泌尿器科 村嶋 隆哉

2012年3月修了

センター通信50号記念号の発行、誠におめでとうございます。
15年前の4月、卒後臨床研修センターの入職式に、皆がスーツ姿で参加する中、ただ一人普段着で参加して大恥をかいたことを昨日のことのように思い出します。
学生気分の抜けなかった私も、小松先生をはじめ多くの方々に温かくご指導いただき、無事に研修を修了、泌尿器科に入局いたしました。月日は流れ、今では学生や研修医を指導する立場となりましたが、近年は特に、彼らのレベルが年々確実に向ふ上していることを肌で感じております。これも、卒後教育に尽力される先生方や、研修医の皆さんのが努力の賜物を感じております。卒後臨床研修センターのますますのご発展と、関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



小児科 黒木 純

2014年3月修了

医師14年目の黒木純です。現在の専門は小児腎臓病ですが、医療人育成推進センターの一員として医学教育や、宮崎県地域医療支援機構大学分室の副分室長として宮崎大学地域枠の学生や卒業生のサポートも担当しています。私が研修医の時は、42名と多くの同期があり、様々な診療科や宮崎県内の各病院に散らばっていて研修をしていました。そのため、当時は顔を合わせる機会は少なかったですが、今でもほとんどの診療科に同期や先輩・後輩がいて、その繋がりが仕事の大きな支えになっています。研修医として不安そうに質問に来ていた後輩たちが、今では頼もしい医師として活躍している姿はとても感慨深く感じています。研修医の皆さんのが今の経験や仲間、指導医との出会いは、将来かけがえのない財産になります。大変な時期だと思いますが、一日一日を大切に頑張ってください。



消化器内科 中村 佳菜子

2016年3月修了

センター通信第50回記念号のご発行、誠におめでとうございます。研修医1年目の夏に寄稿した記事を読み、旧第一内科でのポンコツ研修医の日々を思い出し、恥ずかしくなっています。未熟だった私に熱心に指導してくださった多くの尊敬する先生方や支え合える心強い同期との出会いは、今でも私の大切な財産です。
現在は宮崎大学医学部附属病院消化器内科で内視鏡検査などに従事するとともに、医療人育成推進センター・地域医療支援機構大学分室にて地域枠学生や卒後医師の教育・支援に携わっております。かつての私を指導してくださった先生方のように、後輩たちの力になればと思っております。末筆ながら、宮崎大学卒後臨床研修センターのさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。



救命救急センター 田中 達也 2017年3月修了

数えると医師11年目。気づけば、研修医時代に憧れていた先輩方と同じ世代になっていました。あの頃見上げていた大きな背中を思い出すたびに、その偉大さを今も実感します。

この11年の間に、いろいろなものが増えました。医学的知識、できる手技、顔なじみのスタッフ、関わってきた患者さん、自分の家族、お腹まわりのお肉、日々の仕事や疲れ・・・。研修医の皆さんを見ながら「あの頃に戻れたら」と時々思います。

このセンター通信を読んでいるフレッシュな皆さん。この先勉強しなくなる分野や、今だからこそ挑戦できることがたくさんあります。時間、立場、体力、体重、いろいろなもので腰が重くなる前に、どうか今のうちに思い切って挑戦してください！

卒後臨床研修センター思い出の一コマ ~2014年度研修より~



2014年度研修生が作成してくれた
「KM2Sotsu5ポロシャツ」を
2025年10月現在の小松が着てみました!



手に持っているのは、
2014年度修了生が
企画した「研修医卒業旅行」の
写真集です



うしろ



2014年度研修修了生
(2014年11月ローテート説明会時、みんなでポロシャツを着て撮影)



内分泌・代謝・糖尿病内科 田中 友梨 2018年3月修了



整形外科 神谷 俊樹 2020年3月修了



放射線科 松村 研吾 2020年3月修了



整形外科 喜多 恒允 2021年3月修了



循環器内科 内田 晓子 2021年3月修了



消化器内科 幸島 悠佳 2023年3月修了

卒後臨床研修センター通信第50回記念号発行おめでとうございます！

研修センターで互いを励まし合ったり、刺激されたり、飲み会の計画をしたり、進路について語り合ったり、小松先生の笑顔と優しさに癒やされたり、いろいろな思い出が蘇ります。私は今年4月久しぶりに大学病院へ戻り研修医の先生と関わらせていただき、自分が研修医の時はこんなにできていなかったなと思うくらい、研修医の先生方の手技やプレゼンが上手で、患者様と真摯に向き合われ、日々感心し私の方が学ばせていただいております。研修医の2年間本当にあつという間だと思いますので、毎日を大切に実りある研修となるよう願っております。

センター通信vol.50に寄せて

研修時代は様々な診療科の先生方にご指導いただき、普段の日常診療はもちろんのこと医局旅行や学会にも参加させていただきました。また、コロナ前であったこともあり同期と企画したキャンプやビアガーデンは今も思い出として心に残っています。当時は早く専門性を身につけたいと焦る気持ちもありましたが、振り返ると多くの先生方と触れ合いながら、自由に学びたいことに取り組めたかけがえのない時間でした。現在は整形外科専門医としてスポーツ・上肢班で診療に従事しておりますが、あの研修時代の経験が今の礎となっています。これからは診療科の垣根を越えて、後進や宮崎県の医療を支える存在になれるよう尽力してまいります。

「卒後臨床研修センター通信」第50回記念号、誠におめでとうございます。

私が「研修医の声」を担当したのは6年前。卒後臨床研修2年次のローテーションは、その後のキャリアで経験できないかもしれない、でも自分が携わるかもしれない、そんな研修先をたくさん選んで、その結果、今でも唯一無二の、大切で貴重な一年間になりました。

私はつい先日、放射線診断専門医認定試験に合格したところです。仕事は多いですが、研修医の先生をはじめ後輩の皆さんることはいつも頭にあります。診療科の枠を超えて、自分たちの仕事や環境、進む道の魅力を日々伝えながら、一緒に地域の健康を担える仲間を増やしたいと思っています。応援しています！

祝 センター通信vol.50 おめでとうございます。

宮崎大学整形外科の喜多 恒允(キタ ツネマサ、2019年卒)です。

私は本院で研修医として2年間勤務し、その間研修医リーダーを務めさせていただきました。各科の先生方から熱心なご指導を受け、現在整形外科医として診療にあたる中でも、当時の経験が大きな支えとなっています。研修医時代に築いた先輩・後輩・同期とのつながりは今も続き、診療の相談や近況報告を通じて互いに刺激を受けています。研修医時代を振り返るとともに、現在の自分を見つめ直す中で、本院で研修できたことの意義を改めて感じています。今後も、本院で研修する若い先生方の良き手本となるよう精進してまいります。

センター通信が第50号を迎られましたこと、心よりお祝い申し上げます。寄稿当時の私は1年目の研修医で、振り返れば人間的にとても未熟であり、反省すべき点が多くありました。未熟さゆえに、無力さや悔しさを痛感する場面が多くありましたが、そのような私を見離さず導いてくださった方々のご指導に支えられ、少しずつ成長することができました。現在は病理学講座の大学院生として基礎研究に携わりながら、外来やエコー業務にも取り組んでいます。今後は、両分野で得た学びを融合して、自分らしくキャリアを築いていきたいと考えています。小松先生や宮内先生のように、教育の場にも携わり、後進の育成に貢献できるように努めてまいります。

卒後臨床研修センターの先生方、担当者の方々、日頃より充実した研修医生活をご尽力いただきありがとうございます。私も卒後5年目となり、消化器内科医として日々奔走しています。私たちは医科研修医33名と多く、他大学出身者も多い世代でした。お昼や夕方に研修医室に集まり、初めての手技やできたことを報告し合い自然と仲良くなったように思います。現在もお互いに相談しあう心強い同期が近くにいます。指導医としてお世話になった先生には今も声をかけていただきます。研修センターで過ごす2年間は医師のスタートとして学ぶことが多いですが、人の繋がりを広げる2年間でもありました。今後多くの研修医が充実した研修生活を送れるよう、私も微力ながら貢献していきたいと思います。

第7回

研修医川柳コンクール

南国宮崎にも秋が訪れ、川柳の季節となりました。宮崎大学研修医による川柳コンクールは第7回を迎えました。始まった当初はこんなに長く続くとは予想していませんでしたが、委員長(発案者)として大変嬉しく思います。今年も、研修医の先生方が感じる日常の風景を独自の視点で詠んでくれました。医師として駆け出しの今だからこそ詠める秀逸な作品ばかりです。研修医の先生方の成長と、心の機微をちょっと覗いてみませんか?

卒後臨床研修センター 研修医川柳コンクール 委員長 鈴木 翔



最優秀賞

無力感 半年経って 微力感

詠み人 N・K

選評

選考委員 卒後臨床研修センター 緑川 沙樹

研修医なりたての頃は「自分って何か役に立っているのかな」って思いがちですよね。でもその無力感の積み重ねの上に達成感が待っている、そんな気持ちの変化を上手く表している一句だな、と思いました。何年経とうと(研修医の頃とはまた違うかもしれない)無力感を幾度となく味わいます。そういう時、私自身もその先に己の成長があると信じて挫けず前を向いて歩を進めています。

2位

学生よ なんでそんなに 知ってるの?

詠み人 K・N

選評

選考委員 卒後臨床研修センター 鈴木 翔

国家試験で全てを出し切りましたもんね。学生さんの方が、どっぷり腰を据えて勉強する時間がありますもんね。でも、生きた知識を吸収しているのは、研修医の方ですから!

3位

外科研修 2ヶ月たてば 鉄の足

詠み人 T・N

選評

選考委員 卒後臨床研修センター 宗像 駿

最初は立ちっぱなしもつらかったでしょう。努力と慣れが、自信という“鉄の足”をつくりますね。

4位

おめでとう 思い出込めて サマリ書く

詠み人 PN.お元気で

選評

選考委員 卒後臨床研修センター 大平 洋明

担当医冥利につきる時間ですね。ペンネーム「お元気で」先生の、丁寧な診療や患者さんとの会話までも目に浮かぶように感じます。

5位

先生と 呼ばれることの 重さ知る

詠み人 K・W

選評

選考委員 卒後臨床研修センター 小松 弘幸

医師になったばかりの頃の“初心”と“初志”を思い出させていただきました。患者さんに優しく、医療スタッフの皆さんに謙虚でありたいと改めて自省した身の引き締まる一句でした。

令和7年度 宮崎大学医学部5年生 「未来の医療を語るオールみやざき交流会」を開催しました!

令和7年9月19日(金)に宮崎観光ホテルにて、令和7年度 宮崎大学医学部5年生「未来の医療を語るオールみやざき交流会」が開催され、宮崎大学医学部医学科5年生92名が参加しました。

本会は、医学部医学科5年生を対象に、個人の資質を最大限に発揮しながら、医師・研究者として社会貢献を果たすキャリア形成を支援することを目的に、みやざきの地域医療を牽引する関係者が一堂に会し、卒後臨床研修プログラムや専門研修プログラム、医学研究および大学院進学等の情報・交歓の場を提供するという趣旨のもと、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会が主催・運営しています。

まず、県立延岡病院の松田俊太郎総合診療科主任部長と金丸勝弘救命救急センター長より、「私の歩んできたキャリアとみなさんと築く未来の医療」と題した基調講演があり、次に河野俊嗣宮崎県知事と河野雅行宮崎県医師会会長から学生のみなさんに向けた挨拶がありました。

本院の研修医も数名参加し、歓談の時間では臨床研修に関することや今後のキャリアに向けたことなどを学生とざっくばらんに話し、非常に盛り上がっていました。学生のみなさんも年齢の近い研修医がいることで非常にリラックスして楽しめたのではないかと思います。参加された研修医および指導医の方々、学生のみなさん、そして準備、運営いただいた宮崎県、宮崎県医師会の皆様に心より感謝申し上げます。本会が未来の医療人育成につながっていくことを祈念いたします。



/// 研修医マッチング結果 ///

2026年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、
医師は10月23日(木)、歯科医師は10月22日(水)にマッチング
結果が発表されました。

医 師	自主デザイン研修プログラム	29名
	小児科研修重点プログラム	0名
	産婦人科/周産期研修重点プログラム	0名

行 事 案 内 (12月~4月)

12月	13日(土)・14日(日)	令和7年度指導医のための教育ワークショップ
2月	1月31日(土)・1日(日)	第119回歯科医師国家試験
	7日(土)・8日(日)	第120回医師国家試験
3月	上旬	医師研修管理委員会及び歯科医師研修管理委員会(修了判定)
	16日(月)	医師・歯科医師国家試験合格発表
	下旬	研修医修了式
4月	1日(水)	令和8年度研修医オリエンテーション

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、
研修あるある話など、研修に係わる
話ならなんでも原稿募集集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 医療人育成課 卒後臨床研修係
内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

